

うららの 日常活動紹介

仲山 利恵



うららは、横地分類A3、A4、A6、B2、B4、B5-B（盲）、C4の障害像の様々な方が生活しているゾーンです。日常生活は大きく4つのグループに分かれていますが、利用者個々に興味があること、楽しいと感じることが違うため、提供する内容は個々に応じて様々です。

Aさん（横地分類B4）は、棒にリング（ホースを2cmくらいにカットしたもの）を通すことを

行っています。右片麻痺のため、左手のみを使ってリングを掴みます。テーブルに対して垂直に立てられた棒にリングを通していきます。リングが棒の先に引かれ、上手く入らないと、リングを持ち替えて指で押し込むことが見られます。リングを通すことに対する完成のイメージがあるのか、しつかり穴に通そうとする様子が見られます。入れようと意識している様子がうかがえます。また、リングを掴むことや棒に通すことは、時々失敗しますが、あきらめず何度もやろうとし、手元のリングがなくなりますまでやり続けます。自分の手をよく見ており、声を掛けても振り向きません。すべて入れ終わると隣にいる職員の顔を見て笑顔になります。表情の変化から、手元のリングが全部なくなつたという達成感を感じているように見られます。これらのことより、Aさんの棒にリングを通す日常活動は充実した楽しみの時間になっていると感じています。

Bさん（横地分類A4）

の日常活動では、キラキラ光る素材やドミノなど、興味があります。うな見た目がわかりやすく変化する素材を用い、何に面白みを感じるのか、やりたいと意欲的な様子が見られる内容の物を提供しています。ドミノでは、倒れていく様子が面白いのではないかと考え提供してみましたが、職員が「ひとつ・ふたつ」と数を数えながら並べていくことに吹き出して笑うことが見られました。日々の生活中でも、リビング内で童謡が聞こえてくると顔を上げ、笑顔が見られます。ドミノを用いた日常活動で、童謡が聞かれた時のよう、職員の声にタイミング良くハッと気付くような様子が見られました。数を数えながら並べていくと、車椅子の背もたれにもたれ掛かる姿勢から、前傾姿勢になり、顔をドミノに近づけていく様子が見られるようになりました。顔を近づけたまま、唇でドミノを倒したり、咥えました。倒れた時、職員の顔を見て、様子を伺う表情も見られ、職員が並べていくのが待ち遠しいのか、1個目や2個目で倒し始めました。ドミノを用いた日常活動は、「楽しい」という気持ちから「やつてみたい」という気持ちに変わつてきていると

「横地分類 (改訂大島分類)」

「移動機能」、「知能」、「特記事項」の3項目で分類し、以下のように表記する。

例:A1-C, B2, D2-U, B5-B, C4-D

利用者の日々の様子から、個々の興味のあることや楽しいと思えることなどの理解を深め、より良い日常活動を提供していきたいと思います。



<知能レベル>

E6	E5	E4	E3	E2	E1
D6	D5	D4	D3	D2	D1
C6	C5	C4	C3	C2	C1
B6	B5	B4	B3	B2	B1
A6	A5	A4	A3	A2	A1

<特記事項>
C:有意な眼瞼運動なし
B:盲
D:難聴
U:両上肢機能全廃

戸外歩行可	室内歩行可	室内移動可	座位保持可	寝返り可	寝返り不可
-------	-------	-------	-------	------	-------

<移動機能レベル>

